

## 活動を通じて

- ・児童から高齢者までの幅広い年齢層と関わることで、相手の理解度に合わせてコミュニケーションの取り方を学ぶことができた。
- ・医薬品の適正使用に関する参加型クイズ形式の授業および体験実験を通じて安心して安全に医薬品を使用し、地域での薬物乱用防止や自らの健康の維持・増進、病気の予防・治療にあたるセルフメディケーションの意義を広めることができた。
- ・授業や体験を通して、くすりと身体情報の管理ツールであるおくすり手帳への関心を高めることができた。  
※アンケート結果「おくすり手帳」参照
- ・大麻や覚せい剤などの薬物乱用・依存性、喫煙や飲酒の危険性などの啓発活動を行うことができた。  
※アンケート結果「薬物乱用」参照
- ・実施前後にアンケート調査を行うことで本活動の有用性や課題を把握することができた。  
※アンケート結果「参加者からの声」参照

## 活動内容の報告・発信

- ・本活動の一部を日本薬剤師会雑誌に一般論文として投稿中

「児童に対する薬物乱用防止教育における参加体験型学習の有用性」

投稿者：内田美月、鳥居 綾、柳本佳南、間宮隆吉、吉見 陽、鍋島俊隆、野田幸裕